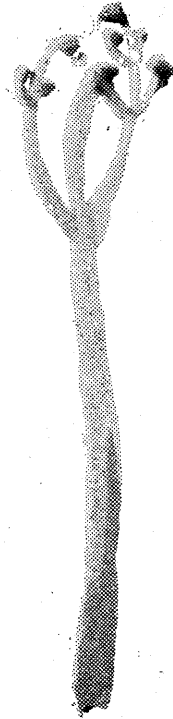


# 新入園児と集団教育



N.T.

久米光

四月に幼稚園へ入った子供が、入園当初は大変緊張して、ある子供など家庭に於ける時とは全くちがった状態になることさえ見受けられます。然し一ヶ月か一ヶ月半位経過すると大分様子がかわって来ます。

よい面としては初めての社会生活にも少しづつなれてきて、あたりの雰囲気や友達との交渉にも漠然ながら理解が出来るようになります。その結果何か安心感をもつことにより

て気持ちゆとりを持つように感じられます。

まづい面としては、異常な緊張をもった反動としてのけん怠、一応よそいきになつて自分のからが取れて又元のわがままな子供にかえつたゆるみでありましょう。

この時期に如何なる保育をしたらよいかと云うことが編集部から呈出された問題であります。

## △ 誰もが通る自然な状態

そこで第一に考えられることは、子供がこのような状態になることは自然であると云うことです。勿論子供の氣質により、又家庭に於いての——主として母親の——取り扱い方しつけ方、又環境によつて個人差は相当ありますが、よかれあしかれ一応は誰もが通過する状態であります。

## △ 保育の土台

一方に於いて、保育者にとつては、この一ヶ月乃至一ヶ月半の間は、未知の子供の一人一人に親しみ一人一人を観察して、身心の発達の上から、性格の上から、種々の方面からの傾向を知る期間であります。この意味ではよく泣く子供、駄々をこねる子供は真先に保育者と親しくなります。子供を知ると云う土台なしには保育を進めていくことは出来ません。本当に子供を知つてはじめて今日の保育があり、今日の保育は、明日の土台となり、明日の保育は今日の保育の上に立てられるのであります。

殊にこの時期になれば入園当初のように、子供が泣いたりむづかかったりする事で、わづらわされる事が少くなりますから、尙一層子供を知る余猶ができてきます。こうして幼児全体として如何に取り扱うかと云うことより前に、一人一人の状態に應じた保育が必要なることは当然であります。したがって保育の実際としては、まず次にあげるような心遣いが大切ではないでしょうか。

#### △ 保育者の心遣い

一、毎朝子供はどんな顔をして登園するか。今日も目を輝かし喜びにあふれて「おはよう」をいったか。何か目に力なく皮ふが弛かんで元気が少くはなかつたか。

二、登園してどう云う行動を第一にするか。今日もあれをしようと思気込んで遊ぶか。鉄棒とか砂場とかブランコとか——があるか。すぐお友達と仲間になるか或いは漠然としかも楽しんで園内を歩きまわるか。それとも先生の手にぶら下らないまでも側をはなれられずにいるか。

三、部屋に入った時、おちついて先生の話

をきくか。どの位の時間つぶるか。すぐ注意がみだれてお手洗いにいきたがったりするか。

四、その子供が幼稚園で一番興味をもつとは何か。おはなし、リズム、うた、外あそび、内あそび、おしごと、それとも何にも大して興味をもたないか。

五、友達どう生活したか。交渉がうまくいったか。

六、朝にもまして発らつとして元気一杯「さようなら」をしていったか。疲れたような様子ではなかつたか。

#### △ 子供を知ることが保育の第一歩

こんな事を先生は毎日みのがすことなく注意しなければならぬ。そこから保育者の得られるものは、子供が何を喜び、何を望んで居るか。又何が不満であり、何をおそれているかどんな癖をもっているか、等々、子供の長所短所を知ることあります。かくして子供を知ることが保育の第一歩であります。

#### △ 勉強する先生

知ると申して、勿論外にあらわれた事だけでは不十分です。

幼児の心はどう発達するか。発達の心理はどうであろうか、発達にはどんな型がありどんな波があるか、又正しい発達とはどんなものか。子供の健康——身体と共に精神の健康をもふくめて——についてはどう考えるべきかと云うような事についても充分勉強しなければなりません。そうしてこそはじめて子供の年令に應じての興味や欲求のめやすもわかり、一方では不必要な心配や焦慮をすることがなくなります。従って保育に無理がなく、むしろゆとりのある生々したものになるでしょう。こうかいて来ますと、問題から遠くはなれてしまったようですが、実は根本的なものはどんな場でも大切であります。むしろ日頃の精進こそよき保育、臨機応変の指導となつて役立つと云うものです。その意味で保育者は常に勉強する者でなければなりません。

#### △ 深い信念と静かな愛をもって

又子供はあたりの空気を感じとることに実に敏感です。自分が先生から又友達から可愛

いがられているかどうか、周囲の人達が平和に信頼しあって生活しているかどうか、直感的に感じるものであり、そのことは子供の生活に大きな影響を与えます。ですから保育者が常に深い信念と愛をもって、いつ如何なる時にも動じない静かな態度とどんな子供をも抱き得る暖かい心を身につけていることは最も望ましいことです。また同僚の間が平和であり、お互いに力を合わせあっていることも大切であります。

#### △ 幼児を尊敬し仕えるような謙遜さ

と同時に幼児を一人の人格者として、尊敬をもって之に仕えていくような謙遜を持ち度いものです。これは私の親しい友人から聞いた訳ですが、かつて友人が植物学者として有名な牧野富太郎博士にしたがって度々採集に行かれた時のこと、博士は小さい雑草を探られる際にいつも「その植物を通して真けんな研究をすることが出来てありますか」と云う折りをもち必要だけのものを採集され、後には静かに土をかけ、一歩下って目礼されたと云うことであります。又小さい参加者が

「これなーに」とおたずねする毎に、大人に對するのと同じ態度で「何々」といいねいに教えられたそうであります。小さな草一本に對しても幼き者に向つても、相手をおろそかにせぬこの真剣にして謙遜な態度、これこそ保育者が真に学ぶべき態度と思います。どんな境遇の子どもでもどんなに知能の低い子どもでも又どんな問題ある子供でも、保育者にこの態度がある時、自らよい結果が生れることは当然でありましょう。

#### △ 自然にしたしむ

さて誰もが通るこの状態になった頃、自然は生々としています。木の新芽は日毎に緑をまし、田圃にはれんげの花さき、蛙なき、蝶や蜂は花から花へとびまわっています。その時、土に親しませたり草花の世話をさせたり蝶や蟻と遊ばせる。園内で又時に園外で、それは最も有効な保育の一つであります。

#### △ 折りをもちて

二度とかえらぬ今日と云う一日を幼い者と共に過す時、子供達のよき成長に微力をつく

すことができるように、幼児一人一人の魂を少しでもきづつけることのないようにこの心からの折りをもって今日の保育をする外にどんなよい道があるでしょうか。保育者自身が自らの力で保育をしていくには、保育と云うことは余りに偉大な又むづかしい仕事です。

(松沢幼稚園)

### 「近刊」

## 幼児の劇遊び集

A5判 約二〇〇頁

当幼稚園において、実際に幼児に遊ばせてみて、有意義だつたと思われるもの二十数種を、一卷におさめたものでございます。

近く皆様にお目かけられると存じております。

昭和三十年六月

お茶の水女子大学附属幼稚園内  
幼児教育研究会